

READERS
VOICE

読者の声

コンサルタンツ北海道 119 号

■巻頭言

「技術士にチェンジとは」

今年のユーキャン新語流行語大賞に「政権交代」が選ばれた。「チェンジ イエス、ウイ、キャン」と同じ世相を反映したものである。しかし、なぜチェンジが必要とされたのか…？

京都大学大学院宮川豊章教授の「本当に欲しいものは何か？：分福茶釜と性能・機能」という短い随筆を読む機会があった。茶釜はお湯を沸かす機能があればよい。分福茶釜は狸が化けた茶釜である。風合い、手触り、重さなど求められる要求性能はある

がお湯を沸かせれば鑄鉄であろうと狸が化けたものであろうと構わない。しかし炉に架けたところ熱さで手足を出してしまいお湯を沸かせなかった話である。最低の要求性能を満足できなかったのである。

国民は安全安心で健康で福祉に恵まれた生活を営む権利を持っており、時の政権はこれを保障する義務を持っている。しかしこの国民の要求(性能)を満足出来なかった故にチェンジが起こったのである。我々技術者にとっても我々を取り巻く社会環境は日々変わるが国民の要求に敏感に接し誠のサービスが出来るようにチェンジの精神を持ち続けることが責務であると感じた。国民から信頼される技術者になる為に！！！！！！！！！！ (S.H)

READERS
VOICE

読者の声

コンサルタンツ北海道 120 号

■年頭所感

「技術士からのマニフェスト」

政権交代という大きな変化と事業仕分けによる科学技術予算の削減、地球環境を問題にした国際会議 COP15 での課題先送りと、明るい話題が少ない昨今において、少し無理してでも明るい一年を夢みましょうという提案です。選挙公約という意味で使われるマニフェストですが、本来声明・宣言という意味で、技術士からのマニフェストを北海道支部から発信してはどうかということです。たしかに北海道の産業として挙げられた農林水産や観光といったものに、技術士が活躍すべき時がきています。私も役に立てることがあれば、是非参加したいと思います。ただし、一つ気になることがあります。最近の与党は、沖縄基地問題や消費税の扱いなどでマスコミに

公約違反だと叩かれているのをみます。技術士からのマニフェストもそうならないように、有言実行が大事だと思いました。そのための構えとして、プロジェクトチームなどを発足させての行動となるのでしょうか。責任重大です。なんか暗くなってきました。(Y.K 血液 AB 型)

■巻頭言

「青年技術士として役割を思う」

まずは、青年技術士交流委員会の 20 (21) 周年おめでとうございます。

青年技術士協議会(旧名称)は、年齢に関係なく技術士合格から 2 年間は会員資格があることから、私ごとですが、合格した 2003 年の春に真っ先に総会に出席させて頂き、オーバーエイジながら 2

年間、総会や勉強会に出さして頂きました。

巻頭言で樋詰委員長が真っ先に述べられている「科学技術関連予算の削減の方向性」は、私たち技術者や技術系の学生の将来に大きな陰を落とすものと思います。特に、今後の「人工減少」や「少子高齢化」に対する色々な施策を技術の分野から下支える技術革新のための予算までが俎上に挙げられ、結果、技術の発展が停滞する事態になるのではないかと危惧するところです。そうならないことを祈ります。

一方、後進の育成のために始められた「学生達に、技術系業務の楽しさや魅力を伝える」活動に大いにエールを送りたいと思います。昨今の若者達は「理科離れ」と言われてもう何年経つのでしょうか。学校現場では、それを歯止めするための施策はトント無いままで今日まで来てしまっています。是非、今の「学校へ行こう」を今後とも継続・発展させていただけることを、もうじき定年を迎えるおじさん技術士として期待し応援していきたいと思います。(J.I)

■報告

「第 5 回 全国防災連絡会議(仙台) 2009 報告」

地震防災について、広く深く議論されていてとても参考になりました。特に仙台では、技術士会が大学や市民や放送局などと連携して活動を深めていることが報告されていて感心しました。しかし、表題を見て、防災全般について幅広く議論されているに違いないと思ったら、地震防災ばかりが話し合われており、水害防災家としては少し違和感を覚えました。確かに、最近ハイチ地震やチリ地震など世界的にも大地震による大きな被害が報告されています。地震が防災上最も重要なテーマであることに異論の余地はありませんが、それなら、会議の名称を全国地震防災連絡会議としてはどうでしょうか。そうすれば、私のような勘違い男もいなくなると思います。ご参考までに。

多分、地震の頻発地域である仙台だからこそのような内容になったのでしょう。ひねくれ者がまた余計なことを言ってしまった。すみません。

(いつものおせっかい男 M.S)

「第 29 回 地域産学官と技術士との合同セミナー」

子どもの頃、豊平川にどうして船が浮かんでいないのだろうと素朴な疑問を持ったが、やがてわかったことは報告にもあるとおり、市街地を流れる川としては日本有数の急流河川だということである。

豊平川といえば何と言っても昭和 56 年の災害のことが忘れられない。8 月のある日、明け方になっても一向に衰えない雨足に、心配になって職場に駆けつけたところ既にあちこちで道路が冠水し、中小河川の氾濫が始まりつつあったが豊平川は持ちこたえた。水の恐ろしさと治水の重要性を感じた。今や清流となった豊平川にサケの稚魚を放流することでカムバックサーモンが実現したが、遡上したサケの半数以上が自然産卵したサケであるとは驚きである。みどりの基本計画は 2020 年を目標とし「人とみどりが輝く札幌」を基本理念とする計画であり豊平川は緑と緑をつなぐ重要な役割を担っている。

市民においしい水を与え、サケや生き物を育み、豊かな緑を提供してくれる豊平川、今回のセミナーの報告を読んで、札幌と豊平川のかかわりを改めて感じた次第である。(K.T)

「第 12 回北東 3 支部技術交流研修会」

この研修会は、東北、北陸、北海道支部の持ち回りで毎年開催され、今回で 12 回目を迎えたということですが、今回を含め出席したのは、札幌で行われた 2 回のみと思う。報告にもあるようにそれぞれの支部から盛り沢山な内容で発表があり、特に、北海道支部の須藤技術士の「インフラからソーシャルキャピタルへ」では、人口減少、少子高齢化に対応するために中心に据えるのは人間のネットワークを重視したソーシャルキャピタルであると結ばれていて、正にその通りと感銘を覚えたことを記憶しています。

来賓の本部副会長の内村さんとは、若い頃に同じ団地で暮らしていて、家族ぐるみでお付き合いをしていたこともあり、交流会終了後の二次会に奥さんもご一緒して昔話や子どもたちの成長の話に花を咲

かせ、楽しい時間を過ごし、思い出深い研修会となりました。(MK)

■活動レポート

北方海域技術研究会『第 1 回定例会』 および『第 2 回講演会』の報告

120 号の報告を読んで、官学と提携して港湾や水産資源に関する研究活動を行っていることを知り、感銘を受けました。今後は研究成果を外部に発信し、研究会が内部活動から一般市民(公民)を対象とした外部活動へと展開していくことを期待いたします。(総監受験生 T.O)

リージョナルステート研究会 『循環技術システム研究分科会活動報告』

約 12 年ぶりの北海道勤務となり 2 年が過ぎた。意外な驚きが、道産米の味の向上であった。わが国の食の安全、自給力向上等の食糧問題へ対応は、今後の北海道が担うべき役割の一つと考える。このような中で、「雪氷熱を利用した農産物の冷温貯蔵」について、興味深く読ませて頂いた。出荷時期の調整、農産物そのものの付加価値の向上(甘みの増加)など、備蓄を前提とした自給力向上や商品価値向上は、農業従事者にとってメリットが多いと考える。農業土木学を専攻した後、建設主体のコンサルタンツエンジニアとして 30 数年経った私ではあるが、かつての「農業施設学」の講義で聞いた、「食物の貯蔵は農産物の生態等を理解している農学部出身者が対応すべきである。」という先生の言葉を懐かしく思い出した次第である。(今野敏フアンの Y.K)

道北技術士会『第 8 回現地研修会の報告』

定的な農業の経営を行うのは、非常に難しいとテレビ報道でやっていた。青森のりんご農家などは、農業の赤字を埋めるために、冬場は都会へ出稼ぎに行っているのが実状であるという。

今回の活動レポートにより、原油価格高騰による

『諸材料・資材の価格変動リスク』を回避するための省エネ技術が研究・開発されていることを知り、日本の食料基地を担う北海道としては非常に心強くと感じました。日本の食料自給率向上のカギは、北海道が握っているため、今後の農業技術の発展を期待したいです。(K.K)

青年技術士交流委員会

『学校へ行こう！シリーズ第 3 弾 2009 北海学園大学編など』

青年技術士交流委員会が日頃の技術士活動から一歩飛び出し、これから社会に飛び出そうとしている若い大学生に対する出前授業を行い、一般市民との交流を深めるフォーラムを開催したことは、大変意義のある素晴らしい活動だと感服しながら報告を読ませて頂きました。

技術士資格を取られた方の中には、技術士が社会にとって大変意義のある仕事をしているにも関わらず、一般社会で資格の意味も活動もほとんど認識されていないことに忸怩たる想いを抱いている方も多数おられると思います。しかし、青年技術士交流委員会のこうした活動は、技術士の認知度をあげるだけでなく、学生諸君に技術の本当の面白さ、楽しさを感じ取ってもらう良い機会になったらと思うます。若い技術士のこうした社会活動によって技術士に対する評価が向上し、技術士を目指す若人が増えてくることに期待したいと思います。

資源に乏しい日本がここまで成長してこられたのは、科学技術をはじめとする様々な「ものづくり」技術があったからこそですが、近年その日本で「ものづくり」技術が失われつつあることは大変残念であり、日本の将来にも暗い影を落としています。ですから、私達が将来を託す日本の若人に技術の素晴らしさを伝承しようとする青年技術士交流委員会のこうした活動を高く評価するとともに、さらに大きく発展していくことを期待しています。

(農業部門、H.F.)